

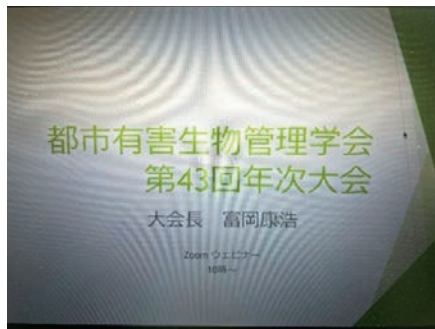
第43回都市有害生物管理学会年次大会

編集委員会

都市有害生物管理学会は、「建造物を荒らすシロアリに対して著名な指導者であり、慶應義塾大学教授、日本しろあり対策協会会長であった森八郎博士によって1973年に「日本家屋害虫学会」として創設されました。

それ以来、住宅におけるシロアリ被害に対しての研究者と燻蒸業者たちとの産学合同による研究の場となっています。また文化財や国宝級の神社や仏閣、それから博物館や図書館に収納されている資料に対する害虫・カビ対策・駆除も森八郎博士が専門とした業務でありました。正倉院御物や、中尊寺に収められている藤原家三代のミイラも、森八郎博士らによった技術で、害虫やカビの被害から守られて、今に伝えられています。その後都市有害生物管理学会となり、毎年、大会を開催して時代を先行した情報交換の場ともなって活動をしております。」(ホームページより)

今回の大会は、昨年につき新型コロナウイルスによりウェブによる開催となりましたが、全国から55名が参加されました。



大会オンライン画面



富岡康浩大会長のご挨拶



安富和男先生の思い出(富岡大会長)

1924年北九州市に生まれる。九州大学農学部卒業、農学博士。2021年6月に逝去された。現国立感染症研究所で殺虫剤抵抗性の研究に携われ日本衛生動物学会賞を受賞、日本昆虫学会会長、当学会の名誉会員となられた。私が高校生の時からテントウムシがご縁で交流させていただいた。(写真は先生がこよなく愛した南八甲田山の鳶沼にて撮影)

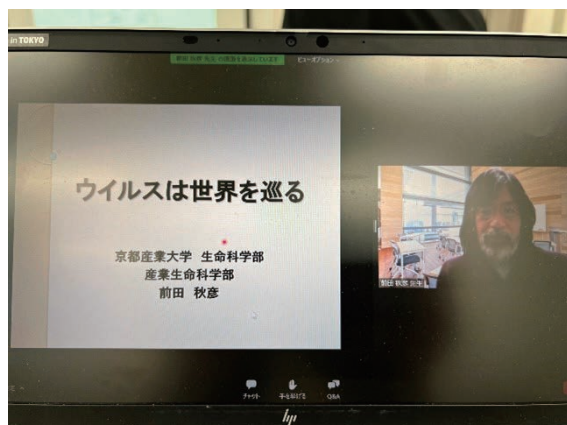
第43回都市有害生物管理学会年次大会

大会長 富岡 康浩(イカリ消毒)

1. 日時：2022年3月18日(金)
2. 会場：ZOOM WEB

特別講演：(前田 秋彦)

京都産業大学生命科学部産業生命科学科



ある種のコロナウイルスが感染する動物種は限定されており、動物種を超えて感染するとは予想されていなかった。今世紀に入って現れた新型のコロナウイルスがスピルオーバーし世界中に感染拡大してしまうことを再認識させられた。次に起こる感染症の流行に如何に対処するか試されている。

一般講演・ポスター

・ヒラシマナガカメムシの都内マンションにおける発生事例

小松 謙之、林 健太(シー・アイ・シー)

都内マンションの1階壁に50匹以上付着したカメムシを同定したところヒラシマナガカメムシだった。関東での記録は千葉県に次いで2例目となり東京では初めての記録となる。

・CA処理における貯蔵食品害虫の殺虫効果

宮ノ下 明大・北澤 裕明(農研機構食品研究部門)、松浦 匡・土方 野分(ツムラ)

窒素ガス置換による低酸素処理の効果を調べたところ、タバコシバンムシの卵は低酸素耐性が強く、100%殺虫には酸素濃度0.1-0.6%、30℃で14日を要した。

・横浜市大黒ふ頭における貨物コンテナ内の外来種マクラツスオオアリの防除事例

富岡 康浩・神戸 嘉一・木村 悟朗(イカリ消毒)、寺山 守(東京大学大学院理学研究科)

プロフルトリン(ピレスロイド系)を有効成分とする炭酸ガス製剤「スプレードライFT」を荷物が入ったコンテナ(12m×2.4m×2.4m)内に8g/m³投薬し2時間暴露したところすべて死亡した。

- ・ **ハイドロ銀チタンを用いた病原体媒介蚊のコントロールの可能性**

江下 優樹(北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所)

ネッタイシマカとダイラスハマダラカに対する試験を行ったところ成虫の羽化率が有意に減少した。

- ・ **タバコシバンムシ用交信攪乱剤の防除効果**

木村 悟朗・鈴木 信也(イカリ消毒)、宮ノ下 明大(農研機構食品研究部門)

交信攪乱剤を長期間使用しても次世代が発生した。タバコシバンムシの防除には発生源対策などとの併用が望ましい。

- ・ **低圧炭酸ガス処理によるクリシギゾウムシの防除(適用温度範囲の拡大)**

玉利 豊ほか(日本液炭)、

炭酸ガスによるクリシギゾウムシに防除効果があり商品価値も下がらなかった。導入コスト面も優れ装置の大型化も容易で開発が期待される。

- ・ **歩道で捕獲されたワモンゴキブリの消化管内容物の観察**

中野 敬一(東京都港区)

ワモンゴキブリの消化管内容物は、クロゴキブリとヤマトゴキブリと比較するとゴキブリ破片、寄生虫卵、木質破片と単純であった。

- ・ **BG - センチネル2を用いた蚊類とその他の飛翔昆虫の捕獲**

菅野 格朗ほか(環境機器)

蚊類はヒトスジシマカが最も多く捕獲され次いでアカイエカであった。その他ではクロバネキノコバエ40.3%、キノコバエ類32.8%、タマバエ12.7%、チョウバエ10.2%だった。

- ・ **カプセルトイの昆虫フィギュアにおける多様化と変遷**

宮ノ下 明大(茨城県つくば市)

昆虫のフィギュア(通称ガチャガチャ)の多様化と変遷について調べた。

- ・ **ビル飲食店におけるベクトロンFLを使用したチャバネゴキブリ防除事例**

佐々木 健(アベックス産業)

十分な量の薬剤処理ができない店舗もありその効果に不安があったものの、防除効果はほぼ良好で改善することができた。

- ・ **環境情報に基づく生息地や被害の可視化 -オオスズメバチの生息地推定マップの例-**

吉村 英翔¹⁾・太田 光祐^{1) 2)}

(¹農研機構・東北農業研究センター、²農研機構・植物防疫研究部門)

東北農業研究センター内に設置した27トラップから38頭の女王と77頭のワーカーが捕獲された。個体数予測モデルを用いて調査地周辺区域でワーカーの個体数を推定した。ハザードマップの開発につながると思われる。